

2 教 育 方 針

(1) 校 訓

英 知

(2) 教 育 目 標

- ① 個々の能力を開発し、個性を伸長し知性豊かな人間を育成する。
- ② 自ら学び自ら考え、問題を解決できる人間を育成する。
- ③ 国際的な視野に立って、自己実現を図る人間を育成する。

(3) 各部・各学年・各教科努力目標

① 教 務 部

- ア 授業重視による学力向上を図る。
- イ 授業力の向上に努める。
- ウ 家庭学習の習慣を身につける。
- エ 教育課程研究の推進を図る。

② 生徒指導部

- ア 基本的生活習慣を確立する。
- イ 生徒理解と適切な指導を実践する。
- ウ 生徒の自主的活動の促進を図る。
- エ 家庭、地域との連携強化を図る。

③ 進路指導部

- ア 適切な進路意識の育成
- イ 学力向上と進路指導の充実
- ウ 保護者との連携の強化
- エ 進路情報の活用
- オ 教員の指導力の向上

④ 図 書 部

- ア 読書センターとしての読書活動の活性化を図る。
- イ 学習センターとしての資料の充実と提供を推進する。
- ウ 視聴覚教育を推進する。

⑤ 厚 生 部

- ア 災害防止の充実
- イ 健康管理の充実
- ウ 環境整備の充実
- エ 購買部運営の充実

⑥ 渉 外 部

- ア P T A・後援会・国際交流後援会の三会の活動の活性化を図る。
- イ 国際交流委員会への協力に努める。
- ウ 同窓会との連携に努める。
- エ 地区高P連と連携する。

⑦ 1 学 年

- ア 基本的生活習慣の確立と自主性を涵養する
- イ 確かな学力の育成
- ウ 進路目標の早期設定
- エ 安心して学べる環境づくり

⑧ 2 学 年

- ア 基本的生活習慣の確立と自主性を涵養する
- イ 確かな学力の育成
- ウ 進路目標の早期設定
- エ 安心して学べる環境づくり

⑨ 3 学 年

- ア 心に響く生徒指導の実践
- イ 確かな学力を育成
- ウ 進路希望の実現
- エ 安心して学べる環境づくり

⑩ 各 教 科

【国 語 科】

- ア 完全授業による学力の向上を図る。
- イ 授業力の向上に努める。
- ウ 学習意欲の向上と家庭学習の確立を図る。
- エ キャリア教育の充実を図る。
- オ 進路希望の実現を図る。

【地歴公民科】

- ア 生徒一人ひとりが、世界の動向と自分の周りの身近な事象に対して深く興味関心を持ち、問題意識に発展させ、解決に向けて取り組むことのできるような公民的資質の育成を目標とする。
- イ 質の高い授業・指導方法を確立するため、教科内での相互評価と省察を継続して行う。
- ウ 生徒一人ひとりの進路希望の実現を達成するため、基礎学力を定着させる。また、難関大学受験に対応するための応用力を身につけさせる。
- エ 成人年齢引き下げに伴う、生徒への政治的、経済的教養を高める指導を行う。

【数 学 科】

- ア 自主的な学習態度を育成する。
- イ 基礎学力の充実と学習意欲の向上を図る。
- ウ 進路に応じた個別指導の強化を図る。

【理 科】

- ア 各教員が研究と修養に努め、教科内での情報交換を密に行い、授業力の向上を図る。
- イ 生徒の自然科学に対する前向きな姿勢を育てるとともに、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。
- ウ 大学入学共通テストにおける得点力向上、進路に応じた学力定着のために、組織的な進路指導を行い、生徒の進路指導・自己実現に貢献する。

【保健体育科】

- ア 健やかな心身の育成
- イ 個人や集団の健康を適切に管理する資質や能力の育成
- ウ 授業内容及び学習環境の充実

【芸 術 科】

- ア 生徒が芸術に関する各科目（音楽・美術）の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けられるように努める。
- イ 生徒が主体的に創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるように働きかける。
- ウ 生徒に生涯にわたり芸術を愛好する心情を育めるよう、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

【英 語 科】

- ア 家庭学習の習慣化と基本事項の定着を図る。
- イ 効果的な指導法を研究し、生徒の学力を高める授業を行うとともに新入試に対応できる学力を養う。
- ウ 資格検定試験の受験を奨励する。
- エ 国際的視野を持った生徒の育成に努める。

【家 庭 科】

- ア 基礎的・基本的な知識と技術を習得をさせる。
- イ 様々な人と協働し、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を育てる。

【情報科】

ア コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基本的な知識と技術を習得させる。

イ 情報を主体的に活用しようとする態度を育てる。

3 教 職 員

(1) 歴 代 校 長

代	氏 名	在 任 年 月
1	目 黒 嘉 祐	昭和38.4.1～昭和41.3.31
2	紺 野 幸太郎	昭和41.4.1～昭和43.3.31
3	中 野 正 彦	昭和43.4.1～昭和45.3.31
4	山 浦 実	昭和45.4.1～昭和48.3.31
5	遠 藤 典 夫	昭和48.4.1～昭和51.3.31
6	檉 村 五 郎	昭和51.4.1～昭和53.3.31
7	田 崎 宗 寿	昭和53.4.1～昭和55.3.31
8	松 田 友 吉	昭和55.4.1～昭和57.3.31
9	中 妻 昇	昭和57.4.1～昭和59.3.31
10	山 内 和 子	昭和59.4.1～昭和61.3.31
11	岩 本 堅 一	昭和61.4.1～昭和63.3.31
12	松 浦 淳 一	昭和63.4.1～平成 2.3.31
13	佐 藤 正	平成 2.4.1～平成 5.3.31
14	根 本 正 紀	平成 5.4.1～平成10.3.31
15	遠 藤 算 彦	平成10.4.1～平成13.3.31
16	我 妻 由 規	平成13.4.1～平成15.3.31
17	遠 藤 宏 之	平成15.4.1～平成17.3.31
18	佐 藤 吉 男	平成17.4.1～平成19.3.31
19	佐 藤 馨	平成19.4.1～平成21.3.31
20	志 賀 一 成	平成21.4.1～平成23.7.31
21	吉 田 啓一郎	平成23.8.1～平成26.3.31
22	五 輪 美智子	平成26.4.1～平成28.3.31
23	末 永 仁	平成28.4.1～平成31.3.31
24	井 関 和 明	平成31.4.1～令和 3.3.31
25	橋 本 忠 広	令和 3.4.1～令和 5.3.31
26	櫻 井 克 彦	令和 5.4.1～令和 7.3.31
27	亀 田 光 弘	令和 7.4.1～

(2) 教 職 員 数

項 性別	校 長	教 頭	教 諭	養教 護諭	実教 習諭	講 師 等	事職 務員	主校 任司 学書	主用 務 任員	校 務 員	業 務 員	学 校 医	学歯 科 校医	学薬 剤 校師	P職 T A員	計
男	1	1	23			3	2	1	1		1	1	1	1		36
女			20	1	2	1	1			1					1	27
計	1	1	43	1	2	4	3	1	1	1	1	1	1	1	1	63